令和３年度　東御市美術品取得審査委員会
次第

日時：令和４年２月 22 日（火）
午後１時 30 分から
場所：市役所本館２階第二委員会室

1　開会

2　委員長あいさつ

3　審議事項
(1) 令和３年度丸山晩霞記念館の美術品取得（案）について

(2) 令和３年度梅野記念絵画館の美術品取得（案）について

(3) 東御市への刀剣等寄贈（案）について

(4) その他

4　具申

5　その他

6　閉会

(1) 令和３年度丸山晩霞記念館の美術品取得（案）について

① 寄贈

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ	寄贈者
1	丸山晩霞	風景(仮題)	不明	水彩	紙	520 × 690	榊原洋二

【佐藤聡史 丸山晩霞記念館館長の説明】

・本作の概要など

取材地は不明。裏打ちされているため、作品裏面を見ることが不可能。

・署名(サイン)について

〇の中に「晩」とある印鑑様のものは、1905年末に東京で水彩画講習所を立ち上げた以降、教授陣が識別のために入れたものと考えられることから、本作は1905年末以降の一定期間に描かれたものと推定するが、丸山晩霞の署名(サイン)の中で、漢字の「晩霞」とローマ字の「B.MARUYAMA」が併記されている作品で、これまで確認できたのが「不忍池」(丸山家所蔵)、布引の懸崖(当館蔵)のみである。そのためこのサインがある作品は極めて少数と思われ、丸山晩霞の署名の変遷や制作年代の推定などにも必要な資料である。

【林誠 長野県立歴史館学芸員の講評】

晩霞記念館の所蔵品としてふさわしい作品と考えます。よって寄贈の受け入れは問題ありません。

【滝澤正幸 上田市立信濃国分寺資料館館長の講評】

左前景に急傾斜地を配し、中景ののどかな田園風景を経て、白く細く左右に伸びる崖の彼方に遠景の山並みが続く。千曲川河畔の浸食崖の存在により、左岸台地の北縁付近から島川原・布下周辺を経て烏帽子岳山麓方面の俯瞰かと推測される。作風は軽妙で手馴れており、細密描写は抑え目ながらも対象を明暗の対比を踏まえて的確に描く。晩霞円熟期の作品と考えて問題なかろう。美術館公開に足るサイズがあり、寄贈を受け入れることは適当と考えられる。

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ	寄贈者
2	丸山晩霞	路傍の家(仮題)	不明	水彩	紙	339 × 495	佐藤美和

【佐藤聡史 丸山晩霞記念館館長の説明】

・本作の概要など

寄贈者の知人宅で所蔵されていたもので、丸山晩霞が豊川稲荷の改修完成時に訪問した際、既知となり入手したものとのこと。

画面中央に川が描かれており、山並みなどから東御市から上田市にかけての千曲川左岸よりの風景である。

【林誠 長野県立歴史館学芸員の講評】

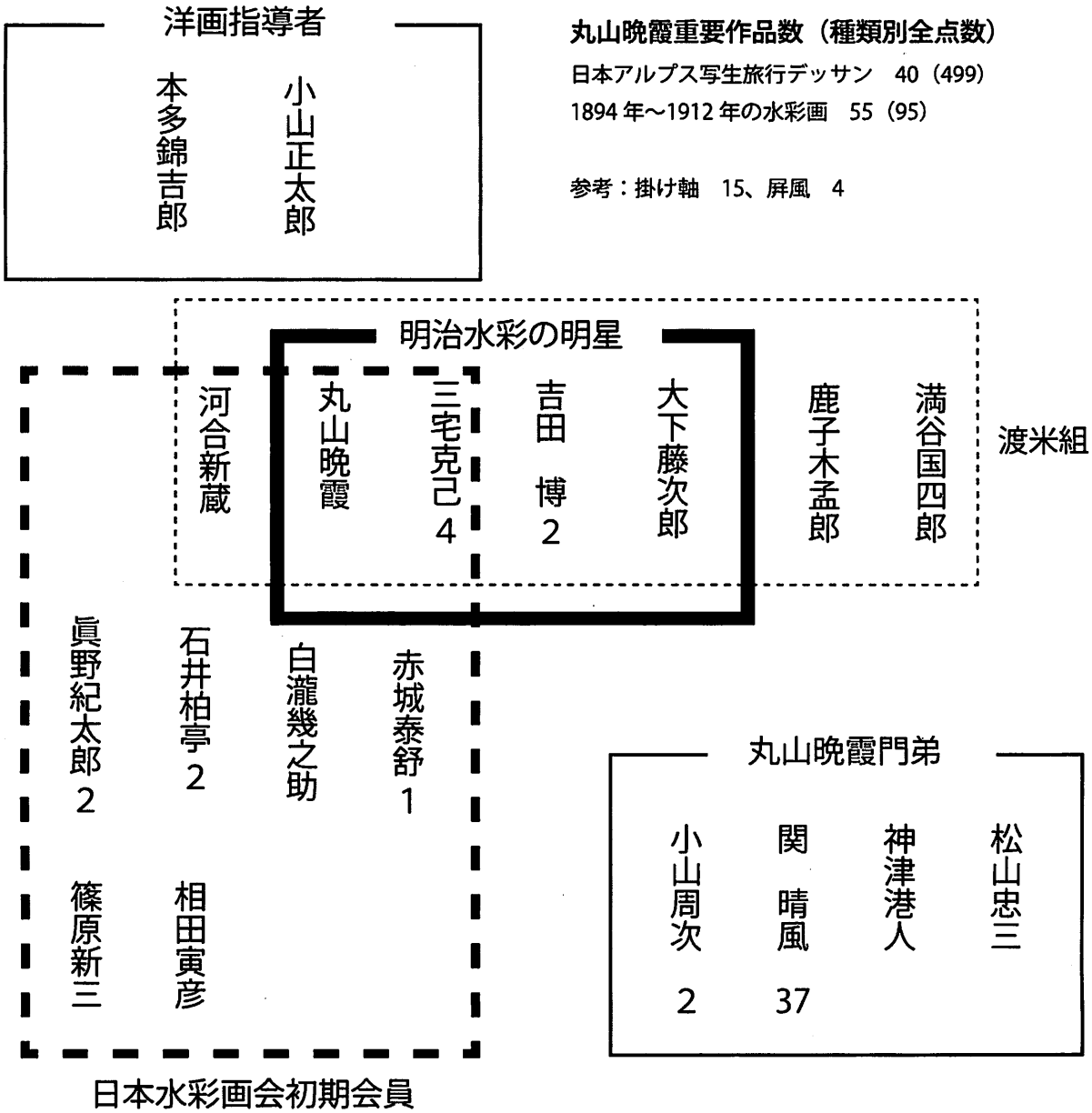
晩霞記念館の所蔵品としてふさわしい作品と考えます。よって寄贈の受け入れは問題ありません。

【滝澤正幸 上田市立信濃国分寺資料館館長の講評】

サインはローマ字と書き印のようだが、後者は稀で時期が限られる。1900年代初頭ということになるが、水彩画指導者として活動を始めた頃の過不足のない爽やかな佳品と評価出来よう。遠景に残雪を抱いた連山が見えるが、後年の概念的アルプスではなく、実景と考えてよかろう。主題である家屋周辺の巨石の存在から、安曇野北部の東山(池田町～大町市)中腹であろうか。サイズも小さめでかなり日焼け・退色しているようだが、資料的価値も踏まえ、寄贈受け入れも問題ないと思われる。

丸山晩霞記念館　作品取得基準

(1)　丸山晩霞および関連作家



丸山晩霞重要作品数（種類別全点数）

日本アルプス写生旅行デッサン　40（499）

1894 年～1912 年の水彩画　55（95）

参考：掛け軸　15、屏風　4

明治の水彩画を丸山晩霞を中心に体系的に収集する

1　丸山晩霞の最盛期とされる 1894 年～1910 年までの水彩画

2　同時期の水彩の明星と呼ばれた作家　特に三宅克己、吉田博

3　日本水彩画会初期会員

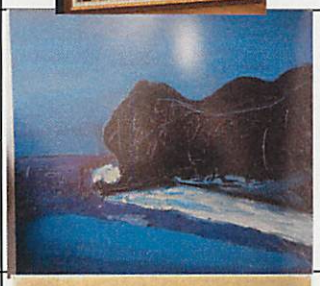
丸山晩霞記念館　作品取得基準

(2)　丸山晩霞略年譜と作風の変遷

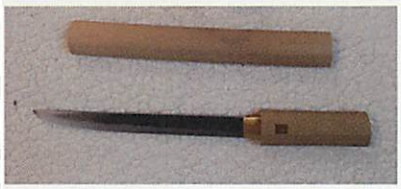
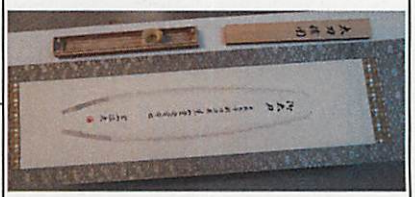
	1867年（慶応3）	信濃国小県郡祢津西町生まれ	
修業期	1888年（明治21）	上京し、「彰技堂」で本多錦吉郎に師事	習作の域を出ない。資料価値として重要
最盛期 1894年～1910年	1895年（明治28）	沼田付近で吉田博と出会う	水彩画に開眼。吉田博の影響が大きく、風景を忠実に画面に表現しようとする。
	1898年（明治31）	吉田博と「日本アルプス写生旅行」を行う	「信州の空気が画面に漂っていて、見る私たちをして浅間山の山麓に引きずられていくような力強さを感じた」三宅克己評
	1900年（明治33）	盟友4人と渡米、現地で吉田博らと合流。3都市で「日本人水彩画家6人展」を開催し、大成功を収める。約100点を販売。	渡米前に、三宅克己と知り合う。海外の影響を受けた三宅克己の作風に影響を受ける。
	1901年（明治34）	アメリカから渡欧し、欧州を巡遊し帰国	
	1902年（明治35）	太平洋画会（現太平洋美術会）の創立に参加。小諸義塾図画教師に着任	欧州の田園画家のライフスタイルに憧れ、田園風景、農村風景に秀作が見られる。島崎藤村らと交友。文学にも影響を与える。
	1905年（明治38）	小諸義塾を辞し上京。太平洋画会研究所の水彩画科教師となる。その後大下藤次郎らと水彩画講習所開設。	水彩画全盛期を迎え、著書も手がける。「和装水彩」と称した、掛け軸を精力的に描く。秀品も見られる。
円熟期 1911年～1920年頃	1911年（明治44）	2度目の渡欧。欧州各地で写生を行う	ウイリアム・ターナーに影響を受けて帰国。画風が変化する。
	1912年（明治45・大正元）	帰国、帝国ホテルで滞欧作の展覧会を開催	欧州風景は現存多数。秀品は3割程度か。
	1913年（大正2）	日本水彩画会創立	後進の指導や水彩画の普及に奔走する。掛け軸などを多作。現存多数。作風は平凡。
晩年	1923年（大正12）	関東大震災救済義援金を募るため、中国、東南アジアで作品を頒布	このころから、指導者として多忙を極め、作品は衰える
最晩年	1936年（昭和11）	吉田博らと日本山岳画協会の創立に参加。郷里祢津村にアトリエ「羽衣荘」を新築	
	1942年（昭和17）	死去。享年76。日本水彩画会から「水彩画家丸山晩霞」（遺稿集）が刊行	

(2) 令和３年度梅野記念絵画館の美術品取得（案）について

① 寄贈

No.	題名 / 作家	年代	技法	サイズ	写真	寄贈者	備考	評価額
1	とりとめのない空間 河野扶	不明	油彩 キャンバス	20号 F 72.7×60.6		中村美智子	2021年 河野扶展	1,000,000
2	瀧 小出三郎	不明	油彩 キャンバス	12号 P 60.6×45.5		伊藤正	2017年 吉岡憲vs 小出三郎 展	675,000
3	少女 近藤光紀	不明	油彩 キャンバス	60号 F 130.3×97.0		美術研究藝林	令和5年度 近藤光紀展（予定）	3,150,000
4	鐘つき時計 近藤光紀	不明	油彩 キャンバス	60号 F 129.5×95.5		美術研究藝林	令和5年度 近藤光紀展（予定）	3,000,000
5	冬の海 菅野圭介	1955	油彩 キャンバス	20号 F 60.4×72.6		美術研究藝林	絵画館主要作家	2,100,000
6	黒潮 菅野圭介	1946	油彩 キャンバス	10号 F 46.0×52.5		美術研究藝林	絵画館主要作家	1,150,000
7	風景（山湖緑映） 菅野圭介	不明	油彩 キャンバス	30号 F 72.7×90.6		美術研究藝林	絵画館主要作家	3,000,000

(3) 東御市への刀剣等寄贈（案）について

No.	種別・銘・作者・年代			技法	サイズ		写真	寄贈者	備考
1	短刀	―		金工	長さ	21.8		花岡　かつ子	
	藤安将平		1997	その他	反り	0			
2	太刀	乙亥歳 芽吹季		金工	長さ	73.2		柳澤幸男	新作（現代）名刀展薫山賞受賞
	宮入法廣		1995	その他	反り	2.6			
3	短刀	壬申歳秋日		金工	長さ	21.5		柳澤幸男	鎌倉時代末の刀の写し
	宮入法廣		1992	その他	反り	0			
4	刀子	白牙把紅把 撥鏤鞘金壮 刀子		金工	長さ	22.0		柳澤幸男	しらがつかこうげばちるさやのとうす
	宮入法廣		1996	その他	反り	―			
5	絵図	押型太刀絵図		紙本墨書刀絵図	本体	131×33		柳澤幸男	No.2の写し
	宮入法廣		1995	軸	全長	203×47			
6	書	寿		紙本墨書	本体	50×33		柳澤幸男	
	宮入清平		不明	軸	全長	145×45.5			
7	書	鐵之華		紙本墨書	本体	27×24		柳澤幸男	鐵之華
	大隅俊平		1999	軸	全長	111×36.5			